

Y17c PAONET データベースの構築

尾久土正己、荻原文恵(和歌山大学)、縣秀彦、中根麻希子、並木光男、小野智子、市川伸一(国立天文台)、山本道成(綾部市天文館)、渡部義弥(大阪市立科学館)、高橋淳(茨城県自然博物館)、洞口俊博(国立科博)、鈴木雅夫(名古屋市科学館)、鈴木麻乃(愛媛県総合科学博物館)、野崎洋子(東大和市立郷土博物館)、嘉数薫(伊丹市立こども文化科学館)、吉住千亜紀(徳島県立あすたむらんど)、宮本敦(さじアストロパーク)、衣笠健三(ぐんま天文台)、PAONETメンバー

1993年から実験を開始しているPAONET(公開天文台ネットワーク)は、公開用画像を約9000枚収集・配信し、各地の公開天文台、科学館、学校で利用されている。最近では、ブロードバンド化やPCの高性能化によって、加盟施設から動画や各種ドキュメントへの要望が高まっていた。そこで、現在のPAONETのシステムは運用しつつ、これまで収集した画像だけでなく、リクエストの高い様々なコンテンツを、新たに構築したPAONETデータベースに移植し、インデックス検索だけでなく、全文検索もできるようにした。

Webを利用すれば、膨大な情報を自由に手に入れることができるが、その中から教育向けの情報だけを探し出すことは難しい。それに対して、PAONETデータベースにあるのは、すべて天文教育に有用なコンテンツであり、素早く欲しい情報を引き出すことができる。従来のコンテンツに加えて、新たに子供向けの画像100選や、教材作成に便利なイラスト集などが、2つのWGで準備されている。本年4月からは、加盟施設だけでなく、著作権上問題のないコンテンツは順次一般公開していく予定である。このPAONETデータベースが天文教育の現場で、新たな科学コミュニケーションのツールとして活用されることを期待している。